

製品名: グリセリン酸キナーゼウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab11511**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	60kDa

抗原情報

遺伝子名	GLYCK
別名	GLYCK; HBEBP4; LP5910; Glycerate kinase; HBeAg-binding protein 4
遺伝子 ID	132158.0
SwissProt ID	Q8IVS8
免疫原	抗血清はヒト GLYCK 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 101-150

背景

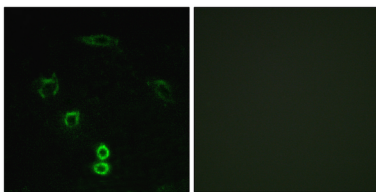
この遺伝子座は、グリセリン酸キナーゼ 2 型ファミリーのメンバーをコードしています。コードされている酵素は(R)-グリセリン酸のリン酸化を触媒し、セリン分解およびフルクトース代謝に関与している可能性があります。コードされている酵素の活性低下は、D-

グリセリン酸尿症に関連する可能性があります。選択的スプライシングを受けた転写バリエーションが報告されています。[RefSeq 提供、2009年1月]、触媒活性: ATP + (R)-グリセリン酸 = ADP + 3-ホスホ-(R)-グリセリン酸。、疾患: GLYCKT の欠陥は D-グリセリン酸血症の原因です[MIM:220120]。非ケトン性高グリシン血症を特徴とし、尿中に D-グリセリン酸が排泄され、血清中にこの物質が存在する。類似性:グリセリン酸キナーゼ 2 型ファミリーに属する。組織特異性:広く発現している。、

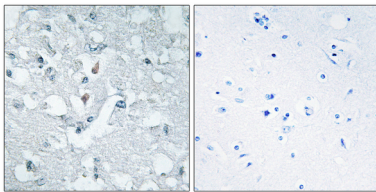
研究分野

グリシン、セリンおよびトレオニン代謝、グリセロ脂質代謝、グリオキシル酸およびジカルボキシル酸代謝。

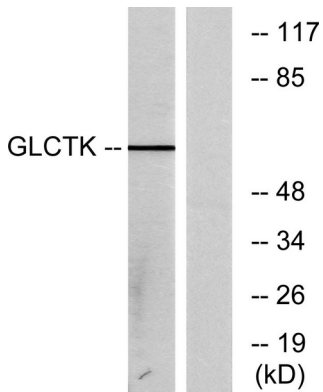
画像データ



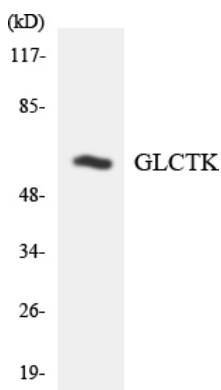
GLCTK 抗体を用いた A549 細胞の免疫蛍光染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。



GLCTK 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト脳組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。



GLCTK 抗体を用いた NIH/3T3 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



GLCTK 抗体を使用した HUVEC 細胞からの溶解物のウェスタンブロット分析。